

第8回（仮称）「漱石山房」記念館整備検討会議事 要旨

■ 日時 2013年3月10日（日） 9時30分至12時30分

■ 場所 榎町地域センター多目的ホール

■ 出席者

中山弘子新宿区長

委員 半藤特別委員、中島座長、中川副座長、石崎委員、半田委員、山岸委員、牧村委員、伊藤(幸)委員、沖山委員、中村委員、田中委員、夏山委員、貝田委員、志村委員、清水委員、桐生委員、江木委員、江田委員、小林(浩)委員、小林(智)委員、松林委員、三又委員、百足山委員、八重樫委員、吉川委員、川嶋委員

事務局等 加賀美地域文化部長、安河内榎町特別出張所長、吉川みどり公園課長、小俣総務部施設担当副参事、橋本文化観光課長、石塚文化資源係長、北見主任主事（学芸員）、小泉主任主事、株式会社丹青社

■ 欠席者 伊藤（聡）委員

■ 内容

1 開会

中島座長より開会を宣言

2 前回のふりかえりと本日の予定

（中島座長）

- ・ 前回は、基本計画の叩き台である素案について、各委員からご意見をいただいた。今回の基本計画（案）はそれを踏まえて、必要な調整を加えてある。
- ・ 本日は区長も出席しているので、各委員からご意見や希望を出していただきたい。

3 整備基本計画（案）の概要説明

(1) 事務局より、整備基本計画（素案）から整備基本計画（案）への修正事項について説明した。

(2) （中島座長）様々な制約がある中で、漱石ファンにも、地域の方にも喜んでもらえる記念館とするために出していただいた、検討委員の皆さまの夢や希望の公約数ができあがったという感じがしている。漱石山房の一部を再現して「土地の記憶」を可視化する。そして、漱石初の本格的な記念館として長く機能を果たせるような中身を作っていく。それは利用者にも地域にもオープンな記念館である。そのためには地域や様々な機関との連携も大切である。このめざす姿の4箇条は基本的な方針として確認できた。事業計画や管理運営計画については、今後十分検討する必要があるが、この検討会としてはこれを基本計画（案）として提出したい。

4 整備基本計画（案）の提出

検討会を代表して、中島座長から区長に整備基本計画（案）を提出した。

5 新宿区長あいさつ（要旨）

- ・ただ今（仮称）漱石山房記念館整備基本計画（案）を中島座長からいただき、感無量である。さまざま分野で活躍されている、また夏目漱石を愛する委員の皆さまからこのような思いのこもった基本計画（案）をいただいたことをうれしく思う。これをしっかり受け止めて、漱石生誕 150 周年に向けて努力していきたい。
- ・整備基本計画（案）に「記念館のめざす姿」が掲げられている。この場所は夏目漱石の終焉の地であり、代表作といわれる数々の名作を書いたところでもある。そうした「土地の記憶」を共有するということはもちろん、漱石の初の本格的な記念館としての役割を果たせるように、文学館としての機能もしっかり核に置きたい。また、この記念館を、全国から、また地域の皆さんに何度も来ていただける開かれた施設としていきたい。そのために大学や民間企業等多くの方々とつながっていくことが重要である。漱石の著作は 100 年を経て今でも多くの人々に読まれているが、それをさらに広げられるような場所にしていきたい。今ほどそれが求められている時代はないと思う。
- ・現在、新宿区では、第 1 回区議会定例会が開かれ、25 年度の予算を決めている。この議会に、（仮称）「漱石山房」記念館に関する経費として 1 億円規模の予算案を上程している。漱石は、新宿で生まれ新宿で没したゆかりの文豪であるが、日本全国の方々にとっての漱石でもあり、世界の漱石でもあると思う。その意味で、この記念館の整備に際して、多くの方々に参画をしていただきたいと願っている。そのためのシステムとして、基金を設け、そのための積立金として 1 億円を準備する。そして、開館までに 2 億円を集めるという目標を設定している。「2 億円なんて高いハードルではないか」と言われるかもしれないが、多くの方々に働きかけて寄附を集め、基金を活用し、そして新宿区としても建設費をしっかりと出し、平成 29 年 2 月には記念館をオープンできるようにしたい。
- ・（仮称）「漱石山房」記念館は、多くの方々の思いが結集した記念館となることで、活気ある運営ができると考えている。研究者からファンの方々まで多くの人々に愛される、そして地域の皆さんにとって、まちの誇りとなり、愛着を感じる施設になることがとても重要であると思っている。ここに集まっていたいただいた委員の方々、まさにそれぞれの分野を代表しているの方々でもある。区としては、この事業を地道に粘り強く進め、成果にまで持っていきたいと思っているので、皆さま方の応援団としての役割を期待し、お願いをしたい。

このあとも皆さまにいろいろとご協力をいただきたい。御礼とともにお願いを申し上げる。本当にありがとうございました。

5 特別委員・半藤末利子氏あいさつ（要旨）

- ・第 1 回でも申し上げたが、せっかく皆さまが集まって議論を重ねても、記念館にリピーターがつかず、ハコモノ化してしまったら何もならない。こういった施設が風化してしまう傾向というのはどうしてもあるが、そうしないようにするには、やはり地域に密着させなくてはいけないと思う。
- ・漱石に関する講演会などは開催することは必要だし、開催すると皆さん聞きにいらっしゃると思うが、一方的に聞くだけではなく、参加型のほうが、カルチャーセンターなどでも栄えているようだ。

俳句や英語教室などいろいろあるが、自分自身が参加できる教室などを開催できる講座室なども記念館の中に構えたほうがいいように思う。とにかく地域の方が参加しやすいようなものを考えていただきたいと思う。

- それから区長もおっしゃったように、寄付などで常に資金を集めていくことが必要。そして、やはり区がたくさんの整備費用を準備しないとどうしようもない。今、漱石の資料は非常に高くなっているが、漱石のものが入ったらすぐ買えるくらいの予算があるといいと思う。日本全国から、それから海外からも寄付をいただくと、とても意義のある記念館になると思うし、そうなってほしいと望んでいる。ありがとうございました。

7 検討会のふりかえり（各委員から）

- 漱石に対して熱い心をお持ちの皆さんと一緒にこの会議に参加したことを、大変幸せに思っている。また、漱石の生誕・終焉の地であるこの地区に、記念館ができるということ、地域としては大変楽しみにしている。この検討会には、近隣町会の町会長が出席しているので、地域としてもこの記念館が風化することのないように、温かく大切に支えていきたい。地域でも漱石について折あるごとに語り合っ、みんなでこの漱石山房記念館を支えていけたらと思う。またこの地域の中には漱石以外にもたくさんの明治の文学者が住んでいた。漱石とそれらの文学者たちを含めて榎地区、新宿全体を捉えていきたい。ロンドンにまで漱石記念館が設けられている中で、この生誕と終焉の地になかったということがとても寂しかったが、それが実現できることを本当に喜ばしく思っている。
- 学識経験者やその他熱心な皆さま方に集まっていただき、真剣に議論をしていただき、早稲田南町が素晴らしいまちになるのではないかと期待を持っている。新宿は世界でも知られている都市ではあるが、まず繁華街というイメージがたつ。新宿区に、そして早稲田南町に、このような立派な計画ができ、立派なものができあがったとするならば、地域の方々が喜んでくれると期待している。
- 地域団体の代表の1人として参加し、美術館や博物館などにはあまり行く機会がなくなっていたが、この検討会をきっかけに、個人的にも時間を作って行くようになった。先ほど「世界の漱石、アジアの漱石」という言葉があったが、2、3日前の新聞でソウル大学に日本文学を専攻する学科ができ、それを推進された先生が東京大学で夏目漱石を研究して博士号を取られたという記事が出ていた。漱石山房がこの場所に復元されたら、先生が日本にいらっしゃった折には足を運ばれると思うが、そのような施設を地元で作る決断をされた区長に対して敬意を表したい。
個人的に漱石を勉強したわけでもなく、本もあまり読んだことはないのですが、この検討会では見せるほうの立場ではなく、見せてもらうほうの立場で発言をさせてもらったが、区長に答申した基本計画（案）の漱石山房の再現展示のイメージを見ても、自分も「このようなものができればいいな」と思えるものだったので、安心している。
- 小説は好きだが、漱石はあまり読んだことがなかった。検討会に参加して、これからは漱石にはまり込んでいくのではないかなと思っている。
今回、建物などについていろいろな案が出て、それが決まり、これからはどういう展示にすれば人に来てもらえるかを考える段になっていく。また来なくなる場所にするためには、ひとつには地元の対応もある。駅から記念館までの道で、必ず地元の人とすれ違ったり、会ったりするわけだが、そういうときに「なるほど漱石が住んだまちだな」と思われるような対応ができればいいのではないかなと思う。これから町内の役員会などでも、この件を報告するが、その際には地元の住民がうまく陰

で対応していくことが成功につながるという話をしてみようかと思っている。

- ・ 漱石山房通りは非常に狭く、にも関わらず通学路、通園路である。区長に近隣の道路整備をお願いしたい。現状では漱石公園の前だけに歩道があるが、柵を設けるというのは無理だろうが、段を設置した歩道を学校のほうまで整備してもらいたい。建設の際には工事車両も入ってくるということで必ず必要になると痛切に感じている。また、2層ないし3層の建物という方針が出ている。現状は4階の区営住宅が建っているが、この記念館は地上2階ということで、建築面積は広くなるが、特別高い建物にならないということで安心しており、地元住民へ配慮していただいたと思っている。
- ・ 商いの団体のほうから少し申し上げたいが、月1回会合を開いていて、既に記念館ができたときに「漱石まんじゅうを作ろう」とか、「猫まんじゅうがいいだろう」とか、いろいろな案が出ている。そういう中で、地方の方が日曜日に来たらお店が休みだったということがないように、店を開けるようにしようなどという話も出ている。

区長へのお願いで、早稲田通りの区営住宅にバスが止められる場所を作っていただけないかと思うもう一つは、山房に行く目印として、既に学生さんたちと一緒に猫のマークなどを作っているので、道路などに整備してもらえれば、来た方がどこのバス停から降りても、記念館に行けるので検討してもらいたい。

- ・ 先日、近くの中学校の校長先生とお話しする機会があり、「この通りに漱石山房ができるんだよ」という話をしたら、先生も大変喜んでいて、中学生にも漱石の作品を読んで読書感想文を書かせたいので、それを発表する場などを提供してもらえるとありがたいという声を聞いているので、ここでお伝えする。

先月、神奈川近代文学館に行ってきた。ちょうど日曜日で企画展をやっていたが、ガランとして静かだった。展示物が全部ガラスの中に入っていて、説明文もガラスの中にあっただが、ちょっと視力が落ちてくると、せつかく説明文があるのに読みづらい。この記念館の展示を制作する際には、来館者の歩く通路の近くに大きな字で説明文を付けるなど、そういうものができたらいいなと感じた。完成を楽しみにしている。

- ・ オープンな記念館を目指す、それから地域の人々の誇りとなる愛着をもてる記念館となるようにと、区長も言っていた。また、半藤さんが、「参加型でいけば、なかなか風化しない」とおっしゃった。確かに自分が参加すると力も入ってくるので、参加型という要素は必要ではないかと思う。さらに、区として1億円以上の予算を計上するということだが、あとの2億円はみんなで協力して、参加を呼びかけるというのもとても重要なことだと思う。やはり自分たちがちょっとでも関わると、全然力の入り方が違うので、それはとてもいいことだと思っている。
- ・ 今回の企画に参加できたことは、私にとっても大きな収穫だった。日本を代表する文豪・漱石を、知ってはいたがあまり身近に感じていなかった。皆さまの大変な努力で何年もかけてできるのだということを知り、敬意を表したい。

8年あまり林芙美子記念館のガイドをしていて、ようやくこのところ芙美子の代わりに気持ちを伝えられるようになってきたのかなというスローランナーだが、今後漱石のほうもどういうふうに分が展開していけるか楽しみにしている。

素晴らしい記念館だったのでもう一度寄りたいたいと思ってもらうにはどうしたらいいのか、いろいろな案があると思うが、今回漱石の素晴らしい思想などを知って、こちらに立ち寄れば、日本人としての誇りだとか自覚が感じられるような部分があればよいのではないかと、例えば、日本の床の間はそれ

が目の前にあるだけで、自分と対峙する大きなものを突きつけられるということのためにあったのではないかなと最近思うようになったが、記念館にそういう場所を作っていただければうれしいと思う。

- ・ 2つお話ししたい。1つはこの検討会のことで、これまでいろんな会議に出たが、経験した中でこの検討会が最高のものだった。検討会がスムーズにいくように、座長が毎回の確に「この回はどういう回を目指しているのか。今回は何をすればいいのか」指示してくださった。そして、それを学識経験者の方がしっかりとサポートし、われわれ委員がそれぞれに頑張っ、この検討会を進められたということ、素晴らしい経験だったというふうに思う。

2つ目は私の小さな第1歩について。以前新宿の小学校に勤めていて、漱石山房の近くの早稲田小学校にも勤めていたことがある。でも、漱石公園に子どもたちを連れていったことは一度もなかった。もう退職して随分たつが、今、区内の牛込小学校で図書ボランティアとして読み聞かせをやっている。この検討委員になり、「このチャンスになんとか漱石の作品を子どもたちに味わわせたい」と思い、今年の1月に『吾輩は猫である』を読んだ。今度記念館ができるが、ぜひ新宿区内の区立の小学生は、卒業までに最低1回はこの漱石山房を訪れる、記念館の方も子どもたちを迎え入れる、そういうチャンスを作ってもらいたいと思っている。これは区長にもぜひお願いしたい。

- ・ この検討会に参加して、会の進め方がとても面白く感じた。類似機関を見学に行ったり、ワークショップ形式で案を出しあうなど、いろいろなやり方を通して検討会が進んでいったのが印象的だった。この8カ月が終わって、これから新宿区内に素晴らしい施設ができるのだなという夢とか希望があり、とてもうれしく思っている。

いざ施設ができたときに、ハコモノだけではなくて、やはりそこにあるソフトをどのように充実させていくかということによって、この記念館がみんなにより親しまれていく施設になると思う。私自身は図書館に勤めており、その中で図書館に親んでもらったり、図書館にある資料を通じて利用者に本の楽しさを知っていただくということをいつも考えている。そのときに、押し付けがましくなく楽しんでいただけるようなイベントや、本に人を引きつけるような方法を考えている。この記念館もぜひそこを充実するようにしていただければと思う。

- ・ 検討会に参加し、非常に勉強になった。毎月とても楽しみにしていた。

夏目鏡子のほうの遠い親戚だが、母や祖父母から夏目漱石の話は小さいときから聞いてはいたが、博識のある方から話を伺い、納得できる場所もあったし、私の知らない夏目漱石の姿というもの、たくさんのお話を伺えた。

昨日まで熊本にいて、夏目漱石記念館に行ってきた。「新宿区でこういうことをしてます」と言ったところ、係の方が非常に丁寧に案内してくださって、細かく見てきた。

先ほど半藤さんもおっしゃっていたが、ハコモノをただ作って、そのあと多少集客できればいいというのではもったいないので、いろんな企画を区のほうで考えてもらいたい。例えば「嵐の櫻井くんが実は漱石ファンで、今回漱石山房をめぐるツアーを企画します」など、夏目漱石に全然興味のない若者も「漱石山房に行けば櫻井くんがいる、櫻井くんが来た」とひきつけられるような企画も、ときどきマスコミを使ってやっていると、思わぬ人たちが夏目漱石に興味を抱いたりする。また「あそこは意外に面白い企画をやる」ということが広まり、いろんな人に漱石山房が新宿区のここにあるということを知っていただくというのは非常にいいと思う。夏目漱石が今度小学校の教科書からなくなってしまうということを知ったので、もう誰もが知っている夏目漱石でなくなってしまうというのは非常に寂しく思っている。ぜひ新宿区の漱石山房が発信地となって、全国の子どもたちからお年寄りま

で、「一度は行ってみたい」と思えるような、そういった記念館を作っていただきたい。

- 公園の近くに住んでいる。この基本計画（案）には非常に重要なことを記載している。重要だと思うところをあげると、やはり山房の復元が大事で、漱石の空気感を再現するために、構造はガラス張りで、ソリッドな建物だが内から外に抜けるような、そして地域とつながるような構造物を作っていただきたい。そして植栽によって外からは視線を遮るような工夫が必要。敷地の考え方は、「漱石公園の存続を前提としつつも、植栽・外構については、漱石公園の敷地も含めて一体的に整備する」と、書かれている部分が非常に的を射ている。また、一体的に整備する中で、運営についても「開館形態についても公園と連携した管理を行うことが求められる」と、少し曖昧だが書いてある。この公園の元の状態は、木が鬱蒼と生い茂り、小学校の子どもを連れていくのをためらうようなところがあったが、今は道草庵が作られ管理されている。今度は、漱石公園の管理と漱石山房の再現の管理と二重構造になるので、山房のほうから公園側を一体的に管理するという形をとり、今までの住民へのサービスや、漱石にふさわしい空気づくりとしての公園・山房の一体的な管理が今後も継続されるということとなり、地域の住民としても、漱石ファンとしても、非常に期待できる整備となると思っている。
- 8カ月間参加し、いろいろな経験をさせていただいた。この基本計画（案）を拝見して、素晴らしい充実した施設ができるという感じがしているが、どうしてもここ1カ所だけでやっていくのは難しい。参加型、いろいろな体験ができる施設という意見があったが、案外、その鍵となるのは、この8ヶ月間の検討会のなかにあるのではないかと。予算の問題とかいろいろと問題点はあるかと思いますが、われわれ委員が体験したことと同じような体験ができる施設であれば良い施設になると思う。
- 立派な漱石山房ができあがることを祈りつつ、区長にぜひお願いしたいのは、ここまでのアクセスが十分ではないという気がしているので案内標識などの設置が必要だということ。たとえば、飯田橋のほうから歩いてきて神楽坂を抜けてこちらまで歩いてくることがあるかもしれない。そういう場合に、「相馬屋さんの前を通過して原稿用紙の一つも買ってみようか」という方もいらっしゃるかもしれない。そういった、記念館までのまち歩きの見点からのアクセスを考えた周辺整備をお願いしたい。この検討会に関わったということで、非常に自分自身鍛えられた。最近『へたな人生論より夏目漱石』という本が出ている。とにかく漱石のいろんな作品の文章を抽出して一つの本に仕上げたという本だが、やはりいろんなジャンルの方が漱石に影響を受けている。漱石山房を、より開かれた情報の発信基地にしてほしい。
- 非常に楽しい会だったが、自分は何かの役に立てたのかという思いが少しある。
漱石というのは、その作品に出会うことによって、その後の人生を変えるくらいの力を持っている言葉であり、小説である。子どもたちに親しまれるキャラクターの開発が非常に大事ではないかという話をしたが、やはり猫と愛犬のヘクトーという犬、それから『文鳥』という小説もあるので、犬好きにも猫好きにも、それから鳥の好きな人にも来ていただける、そして子どもにも親しめるような、そういうキャラクターがあるとよい。

自己紹介で、高校生を教えていたことがあるとお話したが、実はその頃、高校2年生の教科書には、『こゝろ』の抜粋が載っていた。しかも、それはKが自殺する場面で、教材として生徒に教えるのにも、とても重要だったが、おそらく最近は教科書からなくなっているのではないかと思う。それは非常に残念なことで、その作品に取り組む中で、生徒たちは「なぜKは死ななければいけなかったのか」ということや「先生に罪はあるのか」という議論やレクチャーをした上で、自分の置かれている立場とか、あるいは友だち同士の関係にまで広げて考えることができた。そういうこともあって、専

門的な記念館になるというふうには思うが、なるべく中学生や高校生も親しめるような記念館になればよい。

それから、私は俳句と短歌の研究会をやっているので、完成したあかつきにはぜひとも句会だとか歌会でも利用をしたいと思っている。また、ぜひとも俳句の漱石記念賞を創設してほしい。

- もう 60 年くらい漱石山房の近くに住み、やっと記念館といえるそれなりのものができるということで、本当にありがたく思う。

この会に出席していて、そもそもなぜ漱石山房の復元をしようと思ったのか、誰がこんなことをやろうとしているのかと不思議に思っていた。文化事業というのは、誰か非常に個性のある人間が、情熱を持ってやらなければならないはずがないのだが、どうやら区長が一番情熱を持っているようだ。ぜひ実現に向けて継続していただきたい。

文化事業というのは難しい事業で、よほどふんどしを締めてかからないことには消えてなくなってしまふ。そのためにはやはり人を選んでほしい。設計段階あるいは事業の下絵を決めるときに、ぜひこの検討会の代表者を入れていただきたい。そうすると我々がここでいろいろと話した空気がその決定に反映される。そうしないと、ただ検討会の報告書を区議会に出して、それで住民の方も学識者も賛成しているから予算を付けてくださいという、そのための道具にすぎないのでは意味がない。むしろ、検討の中身を伝えるために、人をその過程に入れていただきたい。

中村彝アトリエ記念館の前の通りが石畳できれいになった。それをたどっていくと記念館にたどり着く。四谷の新宿歴史博物館の前の石畳もたどっていくと博物館がある。この記念館の前の通りにもそのようにしてほしい。ついでに、電信柱も撤去していただけないかと思う。あの電信柱は上に変圧器が乗っていて地震があったら危険だし、消防自動車も通れなくなる。ぜひ、通りを石畳にすると同時に電柱を撤去し、誰が見ても「あの先へ行くと漱石山房がある」とわかるようにしてほしい。

それから、今漱石公園にボケが咲いているが、多分このボケは新しく植えたものだろうと思う。ところが、漱石山房にあったボケの子孫と思われるものが見つかった。そういうものも見つけようと思えば見つかると思う。

最後に、東北大学の漱石文庫の資料をこちらに持ってこれたらと思う。何しろ記念物のない、展示物のない記念館ということになると、ソフトだけでやっていかなければならない。100 年、200 年、300 年たってもみんなが来てくれるようにするためにも、何かそういう物が一つ欲しい。

- 私は地元民ではないが、たまたまのご縁でこの検討会に参加させていただいた。改めて漱石について勉強する機会にもなり、また 8 回でここまで来たのは、検討会そのものの進め方も本当に事前準備がしっかりしてされていたということでもあり、その点でも勉強させていただいた。これからはこの大きなプロジェクトがどのように進められていくのか、期待しながら楽しみながら注目していきたい。気が早いですが、記念館ができたなら、もちろん区としての広報等もあると思うが、私も口コミで、身近な友人や知人、漱石の大ファンもいれば、ほとんど関心のない人たちもいるが、そういう人たちも含めて足を運んでもらうようにしたい。

ただ、一度は目新しく訪れても、そのあとが続かないということでは困る。適切なことばが浮かばないが、シーンと静まりかえった記念館ではなく、呼吸している、進化していく記念館、その時代時代の空気を取り入れて、双方向が求められているなら双方向、また違ったかたちがよいのであればそのかたちでと積極的に取り入れて、進化し続ける漱石山房記念館を創っていただきたいと思う。

- 地元企業代表ということで参加させていただいた。この検討会は本当にメンバーの方たちが素晴ら

しく、大変な知的刺激を受けた。

先ほど、教科書にも漱石が取り上げられなくなったという話を伺ったが、幸いなことに漱石は今でも読み継がれている。毎年、新潮文庫では「夏の100冊」というテーマで必ず漱石の『こゝろ』をあげている。もう20年30年になる。これは新潮社だけではない。つまり漱石は、長く長く時代を超えて読み継がれている知的財産で、これほどの知的財産はないと思う。それは、やはり漱石が、いわゆる近代化という中で自分がどう生きるべきかということを深く考え、書いたからだと思う。

この記念館では、土地の記憶を可視化して後世に残していくのだが、いちばん重要なのは、今の子どもたち、そして未来の子どもたちを意識していくこと。過去・現在・未来を見通すものであってほしい。2番目は、やはりこの新宿というローカルからナショナル、そしてグローバルという、世界へつながるところを意識していただきたいと思う。つまり、世界のわれわれの全く知らない国の人々が漱石に興味を持つ、あるいは世界の漱石を研究している人たちがここに訪れると、そういうまさに世界に開かれた記念館であってほしい。3つ目は、Webの充実を図っていただきたい。と同時に、やはりこの漱石山房の復元というのは、リアルなものがあるという感動を与えられるような記念館にしたい。ともかく未来にも、そして世界にも誇れる記念館になってもらいたいというふうに願っている。

- ・この検討会が始まる前に説明を聞いた際には、この事業は山房を復元するという事に一番の主題があるのだと感じていたが、この検討会に参加し、むしろこの記念館ができた後に、いかに地域に貢献するかがより重要だということが分かった。この漱石山房が地域に貢献するという事について、私はやはり建物自身が存在するだけで、地域に良い影響を与えるというあり方が理想ではないかと思う。鎌倉に鎌倉文学館があるが、あの建物は本当に地域のための建物として、地域に溶け込んだものとして存在している。それは、建物自身が建物において歴史を尊重しているかどうかということではないかと考えている。漱石記念館では、漱石が生きた明治時代というものがやはり中心になってくるかと思うが、山房が復元されるだけでなく、新しく建てる建物ではあるけれども、明治というものを未来に継承するような、そういうことを意思表示するようなデザインの建物が漱石山房の跡地にできればいいのではないかと感じた。
- ・6、7年前の、漱石公園の石垣の補修が始まりで、中山区長と「ここに漱石山房ができるといいね」「やりましょう」とそんな話をし、それがここまで来たことを、本当にうれしく思う。

2つお話をしたい。1点は、ぜひこの記念館は二兎を、2つのウサギを追ってほしい。一つは、本格的な研究施設であり世界に発信する、そういうハイレベルな研究施設を目指す、これは当然のことだと思う。もう1点は、地域の拠点、地域の誇りになるような、地域のものであることで、それは特に地域の方たちの協力と支援がなければできないこと。地域の記念館でもあり、広く発信する場でもあるという2つは、二律背反するものではないと思う。漱石は、ご存じのように、深淵な文学論や難しい小説があると同時に、子どもたちに親しまれるような小説も書いている。小説家自身にもそういう面があったはず。ぜひ二兎を追う記念館をつくってほしい。

もう1点は、子どもたちの歓声が聞こえるような記念館にしてほしい。この記念館はやはり生きた記念館、人が活発に出入りできるような、いわばライブ感覚を持った記念館にしてほしい。少子化で減ってはいるけれど、ここに来ると子どもたちのいきいきとした歓声が聞こえる。シーンとした静かな記念館ではなくて、人が出入りをするような記念館にしたい。それには工夫や仕掛けが必要。まだまだ時間があるので、これからもどうやって、現在、将来の子どもたちがここでわれわれと一緒に漱

石を読むような、あるいは自分たちの生き方を考えられるような、そういうものが作れるか考えていきたい。

- 大きな博物館、小さな博物館、いろいろな基本構想委員会などのお手伝いした経験の中で、こういうメンバー構成というのは非常に難しい反面、珍しいなと思った。地域の方、公募の方、学識の方などが参加し、行政が事務局としてまとめていくというのは、果たしてきちんと収まるのかなという不安が正直あったけれども、整備基本計画（案）については、委員の方々の熱意と、座長と事務局のご尽力によって本当にいいかたちでまとまったというふうに思い、改めて感謝を申し上げたい。

今、日本博物館協会の仕事をしているが、検討会が始まった8月というのは、福島の警戒区域の中の博物館の収蔵庫に取り残されている資料のレスキューが始まった時期で、私も何度もタイベックスを着て中に入って、収蔵庫から資料を救出するという仕事のお手伝いをしてきた。

震災から2年経とうとしているが、福島でも岩手でも、「文化は大事だ、日本は文化の力によって再生するしかない」と偉い方もおっしゃるが、実際はすべて後回しにされるということを実感している。なぜ文化が後回しにされるのかについては、いろいろと問題があるが、やはり一つの原因は、大事だというコンセンサスはあるけれども、「博物館は自分たちのものだ」という意識が、やはり一般の方や、通常博物館・美術館を利用されている方の中に、あまり育っていない国だということではないかと思う。保育園や図書館がなくなるという反対運動が起こるが、博物館の場合は住民の方から反対運動が起きない。

この漱石山房が良い博物館として発展していくために、博物館を取り巻く価値は三つあると思っている。「本来的価値」、「社会的価値」、それからもう一つ新しく「共同体的価値」というのを付け加えたい。「本来的価値」というのは、あくまで漱石が持っている資料の重要性や、そこでの研究から生まれてくる情報そのもので、クオリティーとしては中核にあるものだが、それを扱う施設を社会的価値を与えていくのは、設置者としての役割だと思う。きちんと責任を持って、10年20年50年続けていく、続けていけるという責任を、設置者は覚悟しなくてはいけない。もう一つの「共同体的価値」だが、博物館というのはいらっしゃる方をお客さんとして見る傾向がこここのところ非常に強くなってきている。指定管理者の問題もそうだが、お客さまにサービスを提供する、そのサービスはどういうふうにあるべきかという文脈で語られる。しかし、本来は博物館にいらっしゃるお客さまはお客さまではなくて、一緒に博物館というコミュニティーを作る仲間である。学芸員、設置者、事務方も含めて、どのような博物館にしていくのかという議論に参加する仲間としての利用者が育ってきて、その日常活動の中で博物館というものが一つのコミュニティーになっていき、それぞれの利用者にとって博物館が生活の中で不可欠な居場所だという意識が大切。これが、これからの日本の博物館に育っていくべきだと強く感じている。その中で、これから基本設計、実施設計と進んでいくであろうこの記念館が、ぜひミュージアムコミュニティー、あるいはコミュニティーミュージアムというような新しいかたちの情報発信力を持ち、人とつながった施設になっていくことを切に願い、期待している。

- 漱石というのはやはり作品、言葉を残したわけで、その言葉を次の世代にどう伝えていくかという、そういう面もやはりこの記念館にはあると思う。教科書から漱石の作品が消えているという、これは漱石だけではなくて、近代の名作がどんどん減らされていって、現代のものを採択する傾向になっていると思う。ただ、各出版社も漱石の作品を文庫化し、中学・高等学校の夏の課題図書として、感想文を書いてもらうというふうに生かしている。できたら小学校・中学校などでも、課外でもよいので、先生が漱石のテキストを読む、そして、その手助けをするのがこういった記念館ということになると

よい思う。

一つご報告で、漱石没後 100 年、生誕 150 周年、その記念年実行委員会も活動している。イメージキャラクターが必要ではないかということで、鎌倉の円覚寺帰源院で選考をして、二つ決めた。一つは漱石がいて猫がいるもの、これはもう大体決まってくる。もう一つは、漱石がロンドンを、本当は憂鬱な留学生活をしていたのだが、ステッキを持って闊歩しているというもの。そこにもやはり猫がいる。そういうものが選ばれるということだから、この記念館は猫だらけの一室が一番客寄せにはいいのではないかという気もする。

8 特別講演（石崎等委員より）

テーマ：「漱石山房」をめぐる記憶の風景

漱石の次男・伸六の友人・鷺尾洋三、夏目家に猫を預けに来た澁川家の書生・片倉勇作による漱石や「漱石山房」に関する記述の紹介など。

9 座長・副座長あいさつ

(1) 中川副座長あいさつ

中島先生に大変しっかりやっていただき、何の役目もしないで大変申し訳ない。欠席者も少なく、非常に熱心な検討会だったと思う。先ほど、みなさん本当に重要なことをおっしゃっていて、なるほどと思うことばかりだった。

建築の立場から付け加えておくと、「めざす姿」、これには重要なことが全部書いてあるが、この中に「執筆した空間を可視化する」とある。ただ、この「可視化」に込められた意味は何かということが重要。書齋やベランダにいる漱石の写真がよく紹介されているが、日本の文学者の写真でもっとも好きな写真であるし、漱石らしさが表れていると思う。訪れたときに、そういった漱石の人生が彷彿とし、追体験できるような空間を実現すること、それがどうやったらできるのかということが重要。そこが、建築さえあればいいのではないかと、一般には誤解されることがある。そのためには周辺に気を配るとか、空気感のようなものが大事なのではないかと思う。

それから、漱石はアジアを始め、世界的に人気があるが、やはり日本近代ということが重要で、非常に複雑な時代の中で文学者として煩悶したというのは皆さんがおっしゃる通りだと思う。大事なことは、今世界の中で日本がたどってきた近代化の問題が非常に重要になってきていること。そのところで、漱石記念館が貢献する、あるいは漱石文学が貢献する意味というのは非常に大きいのではないかと思っている。

また、誰でも利用できるということは本当に大事なこと。今、東北では、何の用事もないけれど集まれるスペースが、特に老人が集まれるところが重要になっている。先ほど子どもの歓声が聞こえる記念館という意見があったが、これも重要なことだと思う。本当の意味でいろんな方が来るようにするにはどうしたらいいか、金沢 21 世紀美術館は非常に成功した例だといわれている。金沢 21 世紀美術館では、金沢市立小学校の生徒全員を 2 回ずつ招待したそう。そうすると、子どもは必ず親と一緒にもう 1 回来る。そういうことが重要になる。そして、あの美術館は立地もとてもいいが、素晴らしい、驚きに満ちたスペースが現代美術として作られている。子どもが行っても本当に楽しい、何回も行きたくなるようなところ。この記念館は文学館なので、美術館のようにはいかないと思うが、漱石文学の中で子どもたちにも楽しめる、例えば『吾輩は猫である』であれば、それが解説されているのでは

なくて、「猫の目に立ったときに人間の住居、住宅というのはこうなんだよ」というようなものを作ると、面白いのではないかと思う。

記念館までの道やアプローチが重要だという意見があり、それはその通りだが、新宿区では林芙美子、あるいは中村彝もそうだが、狭く入りくんだ場所に、実際に文化人や芸術家たちがアトリエを作って活動してきた。そのことが日本の近代文学や美術に影響を与えている。そういったものがそこに残り、それをもう一度整備し、町並みの中に生かしていく、新宿区がそういう試みをしているということは非常に重要なことだと思っている。だから、ものとして大きいものでなくても、それをネットワーク化していくことによって、文化的なまちとは何かということ、考え作っていく上で非常に重要な役割をする。そういうネットワークも一つだけではなく重層的に、そして記念館が明瞭な核になっていくようなかたちにするによって、『吾輩は猫である』の部屋だけではなく、『吾輩は猫である』のまちのようなこともできる。猫の目から見たまちから、人間のまちというものを見直す、非常に重要なきっかけになっていく、そういうかたちで子どもが本当に集まってきて喜ぶようなものをぜひ作ってほしいと思う。

それから、地域や大学にくっついている、これも本当に大事なこと。住民の方たちがこういうかたちで検討会に参加されるのは、公共施設ではあまり珍しいことでない。特に地方に行くとやっている。具体的な要望を全部聞きながら、ではみんなで作るにはどうしたらいいかということを見ると、限られた予算と限られたスペースの中で、あまり要求が出てこなくなる。そういうことを自分なりに考えていくことも大事だが、一番大事なのはできてから。ここまで自分たちが一生懸命やったのだから、人を連れてくる。説明するだけではなくて、例えば、窓が汚れていたらみんなで拭きましょうとか、サポーターとしての地域の方たちの役割というのは本当にそういうところにまであると思う。世界的なものであればあるほど、地域の人に愛されてる、大事にされているということが非常に重要。

これからも皆さんでこの事業を素晴らしいものにしていくように、ぜひお願いしたい。私もできるだけのことをしたいと思う。

(2) 中島座長あいさつ

早稲田の学生になったのが東京オリンピックの年。漱石山房という存在を知り、訪ねていったが、そのときはまだ公園も整備されていなかった。今は早稲田の学生も、漱石が非常勤講師をしていたことや、生誕の場所が近くにあることを知らないの、そういう話をすると驚く。大学院の授業でも折に触れて案内している。

今朝、山房の跡に行ってきた。立派な記念館ができたところを目を閉じて思い浮かべ、改めてかなり広いスペースだなと感じ、ここにちゃんとしたものができる素晴らしいなと考えていた。

道草庵にノートがある。開けてみると早稲田の学生が「初めて来ました」と書いていたり、それからやはり地方から見えている方もいる。しっかりした記念館であつたら、訪れたときの喜びというものは大きい。今道草庵には初版本の複製が置いてあり、それだけでもインパクトがあつて「漱石の本というのはこんなにきれいなんですか」と感動してくれる。しかし、今度は資料の生々しさがある。新宿区が実物の初版本を用意してくれるだろうから、リアルな感じというのも受け止めてほしい。そしてザワザワした中で、オープンな本棚の中に漱石の本がいろいろあつて、若い人は漱石の作品を読んで、ちょっと勉強したい人はさまざまな研究書を読めるという、そういうものを私は夢見ている。

高校の検定教科書の編集をいまだにやっているが、漱石は今も教科書に載っている。やはり高校2年生の教科書に『こゝろ』はほぼ100%掲載されているので、安心している。そういう中で、漱石やそ

の周辺の人たちの業績が伝わっていくことがありがたいことだと思う。

私たちは集まって意見を戦わせて、そしてこれだけのことをまとめた。十分なまとめになったかどうか心もとないが、めざす姿の4カ条、これをこれからの数年間思い出しながら、それぞれの分野で、私だったらどのような資料が集められるか、それが展示できるか、活用できるか、と同時に新宿区と早稲田大学などがどんなふうにコラボができるかとか、そういうことを考え合わせながら、さらに意見を出しあったり、夢を語っていったらというふうに思っている。

この基本計画（案）の中に盛り込まれなかった皆さま方の意見も資料としてちゃんと保存され、活用されるはずなので、今後も一緒に漱石山房の復元に向けて努力していったらと思う。集まってくださった皆さま方に、意見をいただき、盛り立てていただいたことに対して、座長として改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

10 閉会

（事務局より）

- ・本日机上に配布した第7回議事要旨（案）について訂正がある場合は、3月19日（火）までに事務局までご連絡いただきたい。
- ・検討会の皆さまには、お忙しい中8か月間にわたり検討会にご参加いただき、御礼申し上げたい。事務局も、本日区にご提出いただいた基本計画案を踏まえ、区の内部でしっかり連携しながら、今後もこの事業に真摯に取り組んでまいりたい。
- ・検討会の皆さまには、今後も記念館整備の取組みの状況の報告やイベント等のご案内などをお送りしたいと考えている。また、これからの記念館整備に当たっての力強い応援団になっていただくことをこの場をお借りしてお願いしたい。ありがとうございました。

（座長）これで検討会をお開きにするが、ぜひまた集まって夢を語りたい。